



財団法人 成長科学協会

理事長 鎮目 和夫

当協会では、設立当初（昭和52年）から子どもの身体の成長の促進を主たる目的として事業を行って参りました。しかし、背が伸びても心の発達がそれに伴わなければならないということから、平成4年協会内に、心の発達研究委員会を設置し研究集会を行うと共に、一般公開のシンポジウムも行って参りました。

これまで7回、各回とも現代の子どもの心の生態とその発達の問題がテーマで、4月には「メディア時代の子どもたち～その光と影～」についての討論を行いました。

第8回は「いじめに関する諸問題」をとり上げてみました。この問題はさまざまな形で論議されていますが、「現代の子どもの心の発達」に関する重要な問題として、その「根源」の分析にもせまっていきたいと思ひます。

多数の方々のご参加をお待ち致します。



心の発達研究委員会

委員長 岡 宏子

子どもたちが健やかに、又人間としての可能性を十分に展開させ、その成長を遂げてほしいとの願ひから発足した「心の発達研究委員会」ですが、これまで父親、働く母親、子どもの発達の現状、食生活の問題、しつけのあり方、メディア時代の子どもたちと、公開シンポジウムを重ねて参りました。毎回多数の方々のご参加を得、又ご熱心な討議を頂き感謝しております。

今回は「いじめをめぐる諸問題」です。テーマとしてとりに上げるのが遅きに失したの感もありますが、幾多の論議がなされつつも、いわば「決定打」を欠いている感もいなめません。具体的な事例、対処の苦慮と共に、そのメカニズムの根源を衝いてみたいと思ひます。

いじめをめぐる諸問題～その根源をさぐる～

「いじめ」これほど子どもの心その学校生活、家庭生活に問題をなげかけ家庭の親達をそして教師をゆさぶってきた問題はこれまであったでしょうか。

この問題が子どもの社会のただ一部に散見されたものでなくなり、一般化また長期化されるにつれて、識者だけでなく、かつては子どもであった大人達一般をも評論家の立場に立たせてしまった感もあります。「子どもの世界にいじめは当たり前」「昔だってあったんだよ」という楽観派から真剣に「どうしたらいいだろう」と取り組むうちに心身を消耗させる人達、「このままでは人間はどうなる？」の悲観論も。しかしこれらの意見の相違も根本的には子どもの健康な心の発達を願ってのことには変わりないはずで。

これらの多様な議論の集積をふまえて「社会が悪い」「家庭が問題だ」「教師がもっとしっかりしないからだ」等々の単なる外罰的原因指摘に終わらずに、何とかこの問題の本質を衝いてみたいという願ひでこの集会在企てられました。

この問題の根源を衝くために、現代社会の中での子どもの心の発達、特に人とのかかわりの発達のし方にどのような特徴、又「偏り」を生じ易いかを問ひます。

更に「生きものとしての人」の根源に溯って「生きもの」であること自体のかかわりに「いじめ」的要因が存在しているのかも考えてみる必要がある筈です。

現実的には学校の中に存在するさまざまな形で具体的な「いじめ」の生態とその条件、それに対する教師、親の対応のむずかしさはどこにあるのか。

更には、相談の専門家や、児童精神科医にまで持ち込まれるケースではどのような特徴があり解決に導くことになるのか等の現状をふまえます。盛り沢山になりますが、この現状と、生物学的、心理・社会的メカニズムの分析とをからみ合わせて考えてみようとおもひます。

心の発達研究委員会

委員長 岡 宏子（大学セミナー・ハウス館長、聖心女子大名譽教授）

委員 東 洋（白百合女子大児童文化学科長、東大名譽教授）

〃 小林 登（甲南女子大学教授、国立小児病院名譽院長）

〃 原ひろ子（お茶の水女子大女性文化研究センター教授）

〃 大野澄子（聖心女子専門学校保育科長、日赤医療センター）

〃 丹羽洋子（育児文化研究所長）

〃 森 玲子（東京都立川高等保育学院）

顧問 鎮目和夫（成長科学協会理事長、東京女子医大名譽教授）

プログラム

テーマ： いじめをめぐる諸問題
～その根源をさぐる～

司会 東 洋

13:00～ 開会 あいさつ
プレゼンテーション
演者からの提言

鎮目 和夫
岡 宏子
関 文枝
佐倉 統
岡 宏子
河合 洋

休憩

～16:20 ディスカッション
質疑応答

◆これまでの公開シンポジウム

- | | |
|-------------------------------|--------------------|
| 第一回 「父親は子どもに何ができるか」 | 平成5年2月27日 (土) |
| | ※(株)海鳴社より記録を出版 |
| 第二回 「子どもの発達は本当におかしいのか」 | 平成5年9月4日 (土) |
| 第三回 「働く女性と子ども」 | 平成6年1月8日 (土) |
| 第四回 「これでよいのか食生活」 | 平成6年7月9日 (土) |
| | ※(株)海鳴社より記録を近日出版予定 |
| 第五回 「しつけとは何だろう」 | 平成7年1月21日 (土) |
| | ※(株)海鳴社より記録を出版予定 |
| 第六回 子どもとまんが、テレビ、ファミコン、電子メディア… | |
| 「心の発達にどう影響するのか」 | 平成7年7月29日 (土) |
| 第七回 「メディア時代の子どもたち」 | 平成8年4月27日 (土) |
| ～その光と影～ | |

演者紹介

東 洋 (あずま ひろし) <司会>

白百合女子大学児童文化学科長。日本発達心理学会会長
教育心理学、発達心理学会の重鎮。東京大学教授、教育学部長を経て現職。心の発達と教育について、日米比較研究など。

関 文枝 (せき ふみえ)

養護教諭
小学校17年、中学校10年、計27年の現職。
15年前から、ヘルスカウンセリングを必要としている児童生徒に携わっている。

佐倉 統 (さくら おさむ)

横浜国立大学経営学部助教授。
専門は行動生態学、進化生物学、科学史・科学論。
「現代思想としての環境問題」「生命の見方」等著書多数。

岡 宏子 (おか ひろこ)

(財)大学セミナー・ハウス館長。聖心女子大学名誉教授。
専門は発達心理学。「心の発達」をとらえる視点の広さと分析の明確さには定評があり、その明快でわかり易い話にファン層が厚い。当研究委員会委員長。

河合 洋 (かわい ひろし)

児童精神科医。
現代の教育あるいは社会環境から生じたとみられる心身の問題をもってしまった子供たちと親への相談と助力に力を注いでいる。